

3月1日 創世記11章27節～12章9節

【解説と黙想】

アブラハムの召命

〈テキストの解説と黙想〉

はじめに、アブラム（のちのアブラハム）の父テラの話から始まる。彼らは、カルデアのウルという都市に住んでいた。そこは、ユーフラテス川沿いの文明の発祥地であり、繁栄した大都市であった。また月の神を崇拝する大神殿がある異教の中心地でもあった。テラには、アブラハム、ナホル、ハランの息子がいた（27節）。この順序は年齢順ではなく、重要度の順序であって、恐らくは、長兄ハラン、次男ナホル、三男アブラムであると言われている。そして、テラの子孫の運命は長兄ハランの死によって、大きく変わる。ノアの子セム一族の後継者であり、三人の子ども（ロト、ミルカ、イスカ）を設けていたハランが父より先に死んでしまったのである。テラは打ちのめされ悲嘆に暮れる。そしてその土地に居たくないという思いに駆り立てられるようにテラは、次男ナホルとハランの娘ミルカの夫婦に彼らの土地を継がせ、自分は三男アブラム夫婦とハランの長男ロトを連れて、カナン地方へ行こうとユーフラテス川を上っていった。なぜカナンなのかについて創世記は語らないが、ウルにいる時すでにアブラムに主なる神のご命令があったと使徒言行録7章で語っていることから、アブラムに語られた主のご命令に従おうとしたのかもしれない。あるいはアブラムが、悲しむ父親を連れて旅に出たのかもしれない。しかし、カナンへの中継地点にあたる大都市ハランに着いたとき、テラ一行は留

まることとなる。ハランはウルと同様に大都市であり、月の神を礼拝する中心都市でもあったことから、テラの老いによる身体的な理由か、あるいは宗教的な理由かは分からないが、その地にテラが205年の生涯を終える時まで住む。アブラムは父親を支えて最後まで仕える。

しかしアブラムがハランで75歳になり、テラが亡くなった時、ふたたび主がアブラムに語られる。それは旅立ちのご命令と子孫の繁栄、そして彼を通してすべての民を祝福するという約束の言葉であった。そして、アブラムは再び旅立つ。それは、異教の神との決別、そして自分に語りかけて下さる主なる神への信仰によってである（ヘブライ11章8節）。アブラムはカナン地方に入ると、シケム、ベテル、アイなどの主要な都市国家や聖所を周ってネゲブに至る。どこにいても彼は寄留民であるが、再び主が彼に約束する、「あなたの子孫にこの土地を与える」。アブラムはその約束に感謝して、聖所とは別に主のために祭壇を築く。そして主の約束のとおり、シケムからネゲブに至る場所が、やがてアブラムの子孫に与えられた約束の地の主要部分となるのであった。

若い時のアブラハムは、兄を亡くし、悲しみを抱いた父を支えながら、異教の環境の中で旅をする。どんな時も彼を支えていたのは、目の前の繁栄や安定ではなく、彼に語りかけられる主の約束の言葉であった。（草野 誠）

3月1日 創世記11章27節～12章9節

【説教展開例】

アブラハムの召命

◇..... 単元のねらい◇

神さまは、アブラムの人生に寄り添いながら、彼を約束の地に招き続けられた。アブラムはそんな神さまの忍耐を携え、ただひたすら寄留者として約束の地を巡る。アブラムは、一步の幅の土地さえ所有しなかったが、しかし神さまの約束の確かさを信じるアブラムは祭壇を建てることで、自分の信仰を証した。私たちの歩みも、目の前の繁栄や安心ではなく、私たちの生涯に寄り添って下さる神さまの言葉に信頼して歩んでいきたい。

「歩みをとめている時も」

もし神さまがみんなに、「あなたの住んでいる土地を離れ、親戚や友達を離れて、わたしが示す土地に引っ越しなさい。」と言われたら、「はい、分かりました。すぐに行きます」と言えるでしょうか。難しいよね。ここには家族も友だちもいて離れるなんて寂しいし、見知らぬところに行くのは不安だし、さらにどこに行くかも知らされていないのだから、自分には無理と思っても当然です。でも神さまは、私たちの歩みを神さまのご命令に従うことができるようにと、不思議な仕方で整えて下さり、そして神さまの示された道には必ず祝福が用意されているのです。

さて、今日からアブラハムの話が始まります。アブラハムは、ユダヤ民族のはじまりであり、また聖書では信仰の父と呼ばれて、神さまから特別に愛された人です。また、アブラハムも神さまのことを愛し、そして信じて生涯を送った人です。

物語は彼がまだメソポタミア地方のカルデアのウルというところに住んでいたころから始まります。ウルという町は、チグリス・ユーフラテス川という古代インダス文

明の発祥の地にあって、大きな町でした。また月の神を礼拝する大神殿がある宗教的な町でもありました。たくさんの人々が商売をするためや礼拝をするために集まってきます。町は人の活気であふれ、雑踏と喧騒、親しさと欲望が交差するエネルギッシュな街でした。アブラハムは、当時はアブラムと呼ばれていて、その街に住むテラの三人の息子たちの末っ子として生まれたと思われまます。11章26節には、「テラが七十歳になったとき、アブラム、ナホル、ハランが生まれた」と記されていて、アブラムが長男かなと思うかもしれませんが、11章32節と12章4節で出てくる数字で計算すると、テラが亡くなったのが205歳、「アブラムがハランを出発したとき75歳であった」ことから、おそらくテラが約130歳の時に生まれたのがアブラムで、長男ハランが生まれたのが70歳かなと思われまます。いずれにしても、今の私たちでは考えられないくらいの年齢ですね。

アブラムは、お父さんのテラと長兄ハランの家族、そして次男ナホルと暮らしていました。家族は、年老いたテラとハランを

中心に仲良く暮らしていたであろうと思われれます。そんな幸せな日常生活に突然の不幸が襲います。長兄のハランが突然亡くなってしまったのです。父のテラは自分より先に息子がなくなったことに胸が張り裂けんばかりの悲しみで打ちのめされたでしょう。また、ハランには息子ロトと二人の娘ミルカとイスカの三人の子どもがいましたから、この子たちを含めてこれから一族はどうしていったらよいのかと、切実な問題に直面します。

そんな頃、主なる神さまはアブラムに告げられました。「あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け」。アブラムは突然のお告げにびっくりしますが、これからどうしていったらよいのかと考えていた頃でしたので、さっそくお父さんのテラに話しました。「お父さん、神さまが私にこう告げられました。きっと神さまが私たちに新しい土地と生活を与えてくれるでしょう。一緒に行きましょう」。悲しみに暮れていたテラも、神さまが息子アブラムに道を示されたことを知って、力が湧き、そのお告げに従うことにします。さっそく次男ナホルとミルカ（亡くなったハランの娘）を結婚させ、テラの土地と仕事を継がせました。またアブラムにもサライを妻として迎えさせ、ハランの長男ロトと一緒に、神さまが示されたカナン地方に向かって旅立って行きます。

彼らはユーフラテス川沿いに上って行きました。当時の旅は危険や苦難もたくさんありました。また、彼らは大都市に住んでいましたから旅慣れているわけでもありません。旅に疲れてもいたでしょう。そんなテラ一行は、カナンへの中継地点にあたる、ハランという町に着きました。ハランは自

分たちが出てきた町ウルによく似ていました。商売の中継地となる大都市であり、また月の神を礼拝する大きな神殿もありました。神殿で歌われる歌や音楽、そしてささげられる香の香りが街を覆っていました。ハランはこの街に住み着くことを決定しました。アブラムは、「お父さん、ここは主なる神さまが私に行くように命じられたところではありません。もっと先に行きましょう」と言ったでしょうが、ハランはこの街に留まることを強く主張し、動こうとはしませんでした。この父親の決定にアブラムは悩んだと思います。そして主なる神さまに祈りをささげて、御心を尋ねたでしょう。しかしこの時には、神さまは何もおっしゃいませんでした。そこでアブラムはきっと、こう考えたと思うのです。神さまは今でも約束の土地に行くことを望んでいるに違いない。でも今、私の祈りに答えられないのは、神さまも黙って忍耐してくださっているに違いない。主なる神さまが忍耐して待つておられるのなら、私も父親に仕えながら、この地で忍耐していよう。きっとふさわしい時に神さまからお告げがあるに違いない。その時は必ず旅立とう、と。アブラムはそのように決心して、父に仕えながら、また甥のロトを支えながら、この地で一生懸命に生きました。神さまはそんなアブラムを祝福されたので、アブラムは財産もでき、使用人も増えます。アブラムにとっても第二の故郷になったことでしょう。しかし、やがて父テラが205年の生涯を終えたとき、再び神の言葉がアブラムに示されました。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す土地に行きなさい」。以前ウルで聞いたことと同じご命令がありました。そして今回はさらに祝

福の約束が告げられました。その祝福は次の三つの祝福でした。第一に、あなたを祝福して繁栄させるということ。第二に、アブラムを受け入れる者にも祝福が与えられるということ。そして第三に、アブラムが地上のすべての民を祝福する神さまの器となることでした。

アブラムはこの言葉を聞いたとき、ただちに旅立ちます。アブラムにとってはハラシに住んでいた時も、主なる神さまはそばにいて下さる方でした。月の神の建物や壮大な礼拝に目を奪われることなく、やがて自分にここから旅立てと言ってくれる声を待ちながら、神さまも声をかけるタイミ

ングを計らって下さっているに違いないと思って待っていたのです。そして神さまが約束してくださる祝福を信頼して、カナンへと出発したのです。

カナンでの彼は土地を持たない寄留者でしたが、彼にはいつも神さまの祝福の言葉がありました。主の示される場所へ行くと、必ず「あなたの子孫にこの土地を与える」と語られたからです。目の前の利益や繁栄にではなく、神さまの約束こそがアブラムの支えでした。その信仰をアブラムは祭壇を築いて礼拝をしながら歩きました。私達も神さまの約束の言葉に信頼して歩みましょう。 (草野 誠)

《今週の暗唱聖句》

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。」(創世記12章1, 2節)

3月1日 創世記11章27節～12章9節

【幼稚科】

アブラハムの召命

アブラハムすごろく

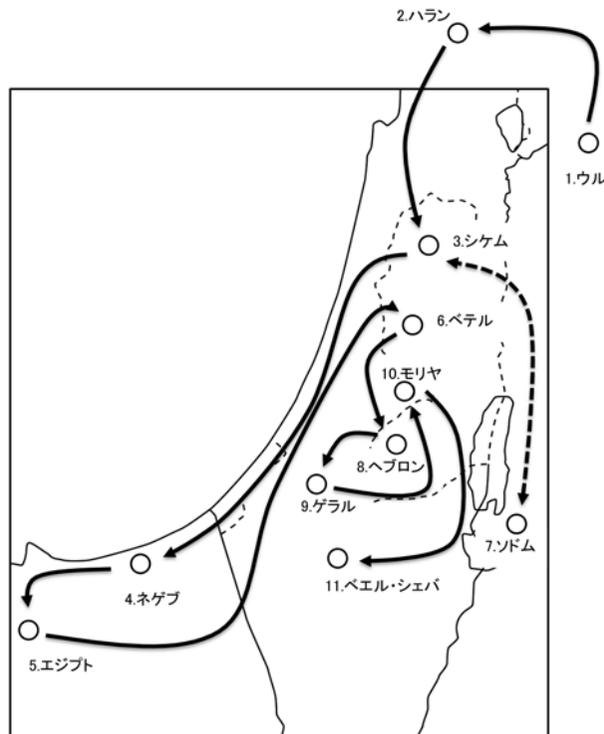
・聖書の中でアブラハムが滞在した場所を地図に記しました。町の名前を順番に辿ってみましょう。

・すごろくのように遊んでも楽しいでしょう。

・地図の中の町は見やすくするために正確な位置ではありません。移動の矢印も正確なルートではありません。

1. ウル (11:31) 出身地。兄が亡くなった
2. ハラン (12:4) 召命を受けた

3. シケム (12:6) 土地の約束
4. ネゲブ地方 (12:8)
5. エジプト (12:10) 妻を妹と偽る
6. ベテル (13:3) ロトと別れる
7. ソドム (13:10、19:1) ロトが移住 (3/15 聖書箇所)
8. ヘブロン (13:18) マムレの檜の木、イサク誕生 (3/8、3/22 聖書箇所)
9. ゲラル (20:1) 再び妻を妹と偽る
10. モリヤ (22:1) イサクを献げる (3/29 聖書箇所)
11. ベエル・シェバ (22:19)



3月1日 創世記11章27節～12章9節

【小学科上級・中学科】

アブラハムの召命

1. 創世記11：27～32を読みましょう。

①テラの家族について説明してください。ここで特に注目されていることは何ですか？

②テラはどこに向かおうとしましたか？

2. 創世記12：1～9を読みましょう。

①神さまはアブラムに何をするように言われましたか？

②神さまがアブラムに約束されたものは何でしたか？

③神さまの招きにアブラムはどう応えましたか？

④アブラムと一緒に出発した人たちは誰ですか？

⑤アブラムは目的地に着くとまず何をしましたか？それはなぜですか？